



Data

監督: 犬童一心
脚本: 犬童一心/浅野妙子/小岩井宏悦
原案: ジャスティン・ザッカム『最高の人生の見つけ方』
出演: 吉永小百合/天海祐希/ムロツヨシ/満島ひかり/鈴木梨央/駒木根隆介/ももいろクローバーZ/賀来賢人/前川清

👁️👁️ みどころ

本作と同じ邦題のハリウッド映画は、余命6カ月宣告を受けた2人のじいさんが、「棺おけリスト」に基づいて遊びまくる映画だった(?)が、日本版はいかに?

吉永小百合主演でハリウッドの許可は出たそうだが、犬童脚本では「棺おけリスト」をどう構築するかが課題に。共演者の天海祐希を、いかにもピッタリな女社長役とすることで、その課題も見事にクリア!

カネの使い道を巡る女社長の模索、苦渋、決断、行動とは?本作の最初と最後が宇宙ロケットの打ち上げシーンになるのを見ながら、余命〇〇宣告を受けた70歳の主婦と51歳の女社長の「最高の人生の見つけ方」をしっかりと検証したい。しかし、あなたの「最高の人生の見つけ方」は?

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■ハリウッド版おとぎ話を、いかにして日本版に?■□■

本作と同じ『最高の人生の見つけ方』(07年)という邦題のハリウッド映画が、2人合わせてアカデミー賞ノミネート16回、受賞4回というジャック・ニコルソンとモーガン・フリーマンが初共演した、「余命6カ月宣告」をテーマにした映画だった(『シネマ20』329頁)。末期ガン告知と余命〇〇日宣告を受ける人は世の中にたくさんいるが、私は同作の評論で、『最高の人生の見つけ方』vs.『象の背中』を論じた。役所広司が演じた『象の背中』(07年)の主人公は、中堅建設会社の部長職のある48歳の働き盛りだったこともあって、『最高の人生の見つけ方』の余命6カ月宣告を受けた2人とは違って、気も狂わんばかりに苦悩する姿が印象的だった。もっとも、以降彼はそれまでに会った大切な人たちと直

接会って自分なりの別れを告げようと友人めぐりを続けていくことになった（『シネマ 16』382 頁）が、それは一体なぜ？ それに対して『最高の人生の見つけ方』の 2 人の主人公は、それとは好対照に「地獄の沙汰もカネ次第」とばかりに「棺おけリスト」に沿って遊びまくったが、それは一体なぜ？

ちなみに、私は 2015 年 9 月、66 歳 8 カ月で大腸ガンの宣告を受けたが、幸いこれは初期の第 1 ステージだったため、無事手術を終え、その後の転移もないまま生き長らえている。しかし、もしあれが末期ガンの告知で余命〇〇日宣告だったとしたら・・・？

私は同作の評論の最後に「日本版「棺おけリスト」も面白いのでは・・・？」の小見出しで、同作の日本版リメイクを提案したが、そこで問題は名優 2 人を探すこと。そこで、「それを日本で探せば、三國連太郎（1923 年生まれ）は別格として、さしずめ高倉健（1931 年生まれ）、仲代達矢（1932 年生まれ）、菅原文太（1933 年生まれ）、緒形拳（1937 年生まれ）あたり・・・？」と書き、また、「そうすると、『THE BUCKET LIST』を監督したロブ・ライナー監督に対抗して、日本で立候補する勇気ある監督は、果たして誰・・・？」と書いたが、今般ついにそれが実現！その監督は犬童一心だが、本作の実現については、本作のエグゼクティブプロデューサーを務めた小岩井宏悦の功績が大らしい。しかして、ハリウッド版おとぎ話をいかにして日本版に？

■□■設定を男から女へ！ハリウッドの許可は？■□■

設定を男から女に切り替えることによって面白いストーリーを思いつくことは多い。その典型が、何と「織田信長は女だった」と設定を切り換えた佐藤賢一の小説『女信長』。私は当時毎日新聞に連載されていた同小説を、毎日楽しみにしていたものだ。

ハリウッド版『最高の人生の見つけ方』のリメイクを考えていた本作のエグゼクティブプロデューサーである小岩井氏は、ワーナー・ブラザース本社から出された「日本のトップ俳優でしかリメイクさせない」との条件を、長い間乗り越えられなかったらしい。当時、高倉健も亡くなっており、ワーナー本社に胸を張って“この人がジャック・ニコルソンやモーガン・フリーマンのような日本の名優”と言える俳優を提示できずにいたわけだ。しかし、そう思いつき、ハリウッド（ワーナー・ブラザース本社）からの OK と、吉永小百合からの出演 OK を取り付けた後は、脚本作りに向けて一目散だ。

ハリウッド版のリメイクながら、発想を転換して女 2 人の旅の物語とし、そのメインキャストが吉永小百合に決まれば、その相棒は？それが、『千年の恋～ひかる源氏物語』（01 年）（『シネマ 1』82 頁）でも共演した天海祐希。この 2 人は共演したかつての撮影現場で、「いつか『テルマ&レイーズ』（91）のようなロードムービーを一緒にやりましょう」と話していたらしい。ジーナ・デイヴィスとスーザン・サランドンが共演した同作は同年輩の女同士がハチャメチャにぶっ飛ばすメチャ面白い映画で、『俺たちに明日はない』（67 年）と同じような迫力満点の映画だった。しかし、吉永小百合と天海祐希は、年齢差はもちろ

ん身長差も大きいから、その相性は？『千年の恋〜ひかる源氏物語』の時ほうまくいったが、さて、本作における2人のキャラは？最初の接点は？そして、この凸凹コンビが繰り広げるロードムービーとは？

■□■「棺おけリスト」をどう構築？■□■

ハリウッド版『最高の人生の見つけ方』の原題は、『THE BUCKET LIST』、すなわち「棺おけリスト」。これは、モーガン・フリーマン扮する生真面目な老人が密かに書いていた「棺おけリスト」をそのままタイトルにしたものだ。したがって、その内容は「荘厳な景色を見る」「赤の他人に親切にする」「涙が出るほど笑う」などだったが、ジャック・ニコルソン扮する陽気で遊び好きな老人が加わって書いた「棺おけリスト」は、「スカイダイビングをする」「ライオン狩りに行く」「世界一の美女にキスをする」など、奇想天外なものに広がっていったため、実にバラエティ豊かなものになっていった。このように、ハリウッド版における「棺おけリスト」は、2人の老人が現実的に「棺おけリスト」実現の旅に出る中で少しずつ変更されたり追加されたりしたが、さて、本作では？

本作では、吉永小百合扮する北原幸枝は、大学を卒業してすぐに結婚して以来、ずっと専業主婦を続けている70歳の女性。それに対して、マ子は、総客数5万を誇るホテルチェーンの女社長で51歳。本来そんな2人に接点があるはずはないが、末期ガン告知と余命〇〇月宣告を受けた2人が、たまたま2人部屋で同室になったところから、本作のストーリーが始まることになる。本作もハリウッド版と同じく、幸枝とマ子が、「棺おけリスト」に基づいて展開するロードムービーだが、違うのは、「棺おけリスト」が同じ病院で死んでいく12歳の女の子・神崎真梨恵（鈴木梨央）が書き残していたものであること。そこでは、「スカイダイビングをする」をはじめ、「好きな人に告白する」「ウェディングドレスを着る」「ももクロのライブに行く」等の女の子らしい「死ぬまでにやりたいこと」が書かれていたが、幸枝とマ子にとっては、その取捨選択は大変だ。もちろん、「宇宙旅行をする」はいくら大金持ちのマ子でも実現不可能だが、いやいや、場合によればそれだって・・・？

犬童一心監督を中心に書いた本作の脚本は、「棺おけリスト」の作成について面白い工夫をしているので、本作ではそれに注目！

■□■昔ならZARD！今は、ももクロ！70代の観客は？■□■

私はクラシックの演奏会に行くのも大好きだが、人気バンドのコンサートも大好き。もともと、友人の歌手である「う〜み」が出演する小さなライブには何度も行ったことがあるが、人気絶頂時のZARDが大阪のフェスティバルホールで開いたコンサートはプラチナチケットだった。それを何とか入手した私は大興奮しながら会場に赴いたが、バンドの演奏が始まると、観客は最初から総立ち！その風景を私は永井真理子のコンサートでも一度体験したが、巨大なフェスティバルホールでのあの風景にはビックリで、疲れ果てたも

のだった。

日本がバブル景気に沸いていた1990年代の人気バンドのトップは亡き坂井泉水がボーカルを務めるZARDだったが、今ドキの12歳の女の子である真梨恵が「棺おけリスト」に書き残したのは「ももクロのライブに行くこと」。まず最初に、アメリカのロサンゼルス上空で決死の(?) スカイダイビングを楽しんだ幸枝とマ子にとって、年齢上多少の気恥ずかしさはあるものの、「ももクロのライブに行く」は簡単に実現できること。しかし、トークの中で、「70代のお客さんは？それはさすがにいないね！」と言われて、幸枝は思わず座席の下に潜り込んだが、そこでマ子が「ハイ」と手をあげ、幸枝にスポットライトが当てられたから大変。もっとも、そこはお利口さんの幸枝のこと、無事に会話を終えたが、そこから更に「ステージに上がって！」「一緒に歌って！」「一緒に踊って！」と言われると・・・？

■□何が幸せ？それを教えるのはどっち？■□

人は何のために生きているの？それは昔からの永遠のテーマで、哲学と文学はその追求が使命と言っても過言ではない。もっとも、それを追求した結果、「恥の多い人生を歩んできました」と自分の人生を総括し、自分自身を「人間失格」と決めつけてしまうのは如何なもの・・・？9月16日に観た、蜷川実花監督の『人間失格 太宰治と3人の女たち』(19年)は、美しい色彩と美しい花でスクリーン上はいっぱいだったが、肝心の主人公・太宰治は「最高の人生」を見つけることができず、自殺してしまうことになった。

それに対して本作は、映画だから多少のウソっぽさはあるものの、「日本一大きなパフェを食べる」ために幸枝とマ子が京都まで行き、その体験をするシーケンスが登場する。そして、泊まったホテルの中で、2人は「ああ、これ(こんな日常)が幸せ！」と感じたというのだから、これなら「最高の人生」を見つけるのは簡単だ。また、2人がももクロのライブに行ったのは逆に「非日常のハプニング」を体験するためだが、そこにも「最高の人生」があったからすばらしい。そうすると、「棺おけリスト」に書いてある「他人のために何かをして喜んでもらう」を実行すれば、もっと「最高の人生」が見つかるのでは？

幸枝とマ子はお利口だから、2人がそれぞれそう考えたのは当然。もっとも、「ももクロのライブに行く」や「日本一大きなパフェを食べる」に比べると、「他人のために何かをして喜んでもらう」は、他人を巻き込むだけにその成功は難しい。つまり、「他人のために何かをして」喜んでもらえたいのだが、逆に怒らせてしまう恐れもあるからだ。戦後74年間も平和が続いたのはいいことだが、その結果、今では人間同士が濃密な関係を持つことによって互いに傷つくことを恐れ、互いの内面に立ち入らない傾向が強まっている。そうすれば、嫌な思いをすることもケンカすることもないわけだ。しかし、それでは「他人のために何かをして喜んでもらう」ことができないのは当然。今の時代を生きている70歳の幸枝も、51歳のマ子もそういうことはわかっているはずだが、あえて「棺おけリスト」

に沿って「他人のために何かをして喜んでもらう」ことを企画してみると・・・？

マ子が幼い頃に自分を捨てた父親を恨んでいることを知った幸枝の企画は、今は老人ホームに入っている父親のもとにマ子連れで行き面談させること。他人がそんなコアな領域に踏み込むことは本来厳禁だが、そこは映画なればこそ、また、大童脚本なればこそ。さて、その結末は？他方、そのお返しとばかりの(?)マ子の企画は、幸枝の故郷・長崎に戻ってのお墓参りの中で実現するので、それにも注目！

それぞれ「ちょっと出来すぎ！」の感はあるものの、「何が幸せ？」を考えさせるについてすばらしい物語になっているので、本作ではそれをしっかり楽しみたい。

■□■カネの使い道は？マ子の模索・苦渋・決断・行動に注目■□■

本作はもちろん吉永小百合の主演作で、天海祐希はその共演者という位置づけ。しかし、2人が「最高の人生の見つけ方」を「棺おけリスト」に基づく実践の中で模索していくについては、マ子が持っている豊潤なカネが大きく効いている。つまり、ハリウッド版でも私は「最高の人生の過ごし方もカネ次第」と実感したが、それは本作でも同じということだ。関西電力の問題が世間を騒がせている昨今、いくらマ子がホテルチェーンの女社長だとしても、株式会社である以上、コンプライアンスが大事だから、ももクロのライブ参加費用や幸枝のお墓参りのための長崎旅行程度の「経費」はOKだとしても、ロサンゼルスでのスカイダイビングやエジプト旅行は「経費」とは認められないはず。したがって、もしマ子が有能な(?)秘書・高田学(ムロツヨシ)の気の利いた手配(村度?)の下で、幸枝と共にくり広げる本作のロードムービーがすべてマ子のプライベート資金から出れば問題ないが、少しでも会社の経費から支出されていけば大問題だ。まあ、本作を鑑賞するについてそんなくだらない問題意識は不要だが、本作ではマ子の模索、苦渋、決断、行動の他、カネの使い道についてしっかり考える必要がある。

ちなみに、長崎で幸枝がウェディングドレスを着るという「最高の人生」は誰でも思いつくが、そこに夫の北原孝道(前川清)を呼んで、再び「愛の告白」をさせるという演出は、ホテルチェーンのオーナーであるマ子ならではのアイデアだが、カネがなければそれはムリ。結婚式を盛り上げるために大量のエキストラを動員するのも、資金力があればこそその演出だ。一介のサラリーマンの主婦である幸枝にとって、そんなカネの使い道は本来夢のまた夢の世界だが、本作ではそれを可能にしたマ子の行動力にしっかり注目したい。

本作の冒頭は、種子島の宇宙ステーションからの宇宙ロケットの発射シーンから始まるが、これが一体何を意味するのかわかる人はいないはず。しかも、本作ラストはその成功に宇宙ステーション全体が沸くシークエンスになり、そこで感極まって泣いているのがマ子の秘書の高田だ。しかし、なぜ高田がそんな席に立っているの？そして、高田がなぜ宇宙ロケットの打ち上げ成功に感激しているの？それはすべて一生懸命働いて成功し貯めてきたカネの使い道に悩んでいたマ子の模索、苦渋、決断、行動の結果だから、本作のそん

なストーリーはあなた自身のものでしっかりと。

2019（令和元）年10月25日記

「最高の人生の見つけ方」(日本映画・2019年)

洋19-154 ★★★★★

<TOHOシネマズ西宮OS>

2019(令和元)年10月14日鑑賞

2019(令和元)年10月25日記

監督:犬童一心

原案:ジャスティン・ザッカム『最高の人生の見つけ方』

北原幸枝(専業主婦) / 吉永小百合

剛田マ子(ホテルチェーンの社長) / 天海祐希

高田学(マ子の秘書) / ムロツヨシ

北原美春(幸枝の娘) } 満島ひかり

若き日の幸枝

神崎真梨恵(幸枝とマ子に「やりたいことリスト」を残す少女) / 鈴木梨央

北原一慶(幸枝の息子) / 駒木根隆介

ももいろクローバーZ(本人)

三木輝男(マ子の夫) / 賀来賢人

北原孝道(幸枝の夫) / 前川清

配給:ワーナー・ブラザーズ映画 / 115分